

2016年3月8日 全8頁

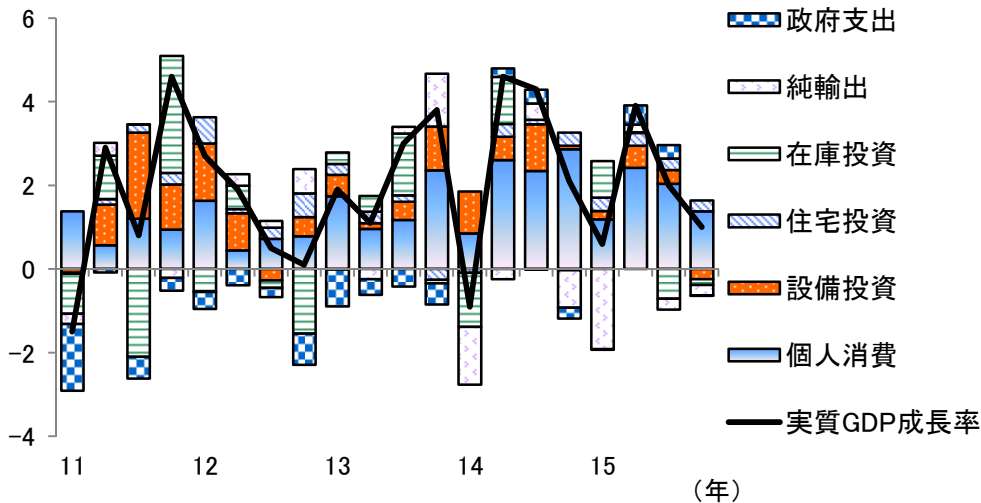
アメリカ経済グラフポケット (2016年3月号)

2016年3月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



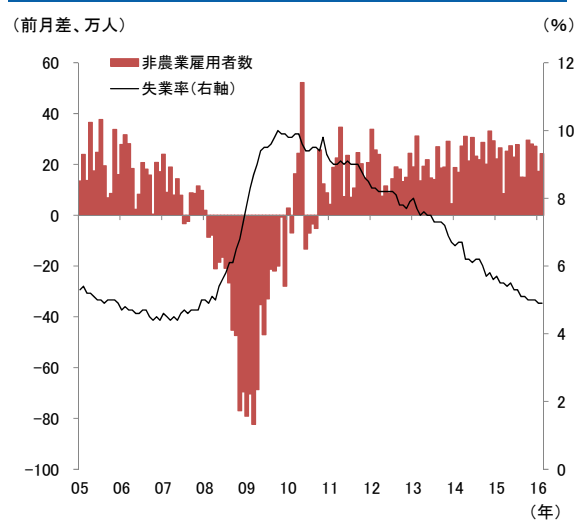
(前期比年率、%、%pt)	2014				2015			
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
国内総生産	-0.9	4.6	4.3	2.1	0.6	3.9	2.0	1.0
個人消費	1.3	3.8	3.5	4.3	1.8	3.6	3.0	2.0
設備投資	8.3	4.4	9.0	0.7	1.6	4.1	2.6	-1.9
住宅投資	-2.8	10.4	3.4	10.0	10.1	9.3	8.2	8.0
政府支出	0.0	1.2	1.8	-1.4	-0.1	2.6	1.8	-0.1
輸出	-6.7	9.8	1.8	5.4	-6.0	5.1	0.7	-2.7
輸入	2.8	9.6	-0.8	10.3	7.1	3.0	2.3	-0.6
寄与度								
個人消費	0.9	2.6	2.3	2.9	1.2	2.4	2.0	1.4
設備投資	1.0	0.6	1.1	0.1	0.2	0.5	0.3	-0.2
住宅投資	-0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
在庫投資	-1.3	1.1	0.0	0.0	0.9	0.0	-0.7	-0.1
政府支出	0.0	0.2	0.3	-0.3	0.0	0.5	0.3	0.0
輸出	-1.0	1.3	0.2	0.7	-0.8	0.6	0.1	-0.3
輸入	-0.4	-1.5	0.2	-1.6	-1.1	-0.5	-0.4	0.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

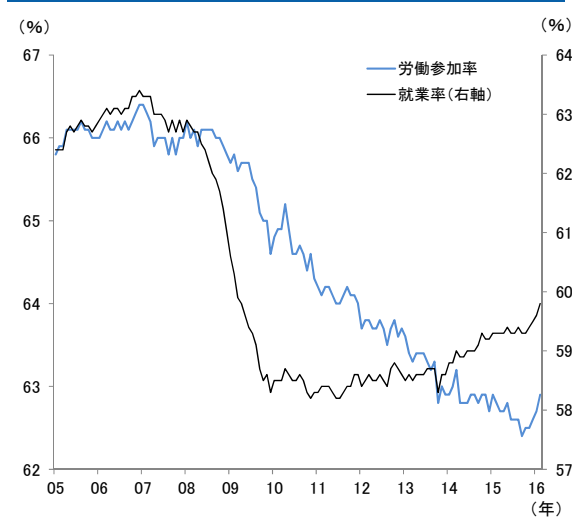
- ◆ 2016年2月の失業率は4.9%となり、前月から横ばいであった。失業者数は前月から増加したものの、労働参加率が前月から上昇し、就業者数は前月から大幅に増加した。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は24.2万人増となった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は23.5万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



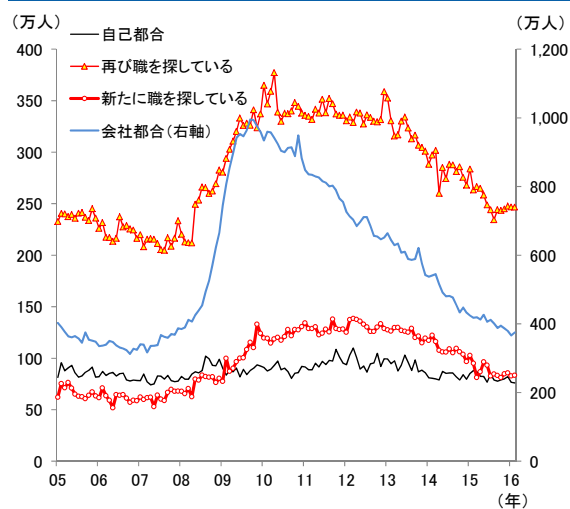
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



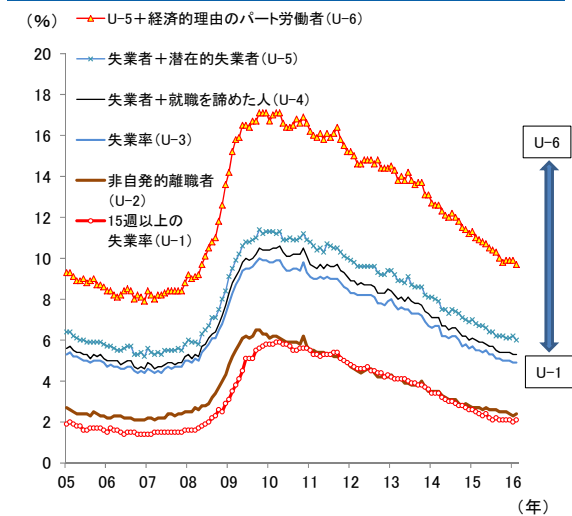
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



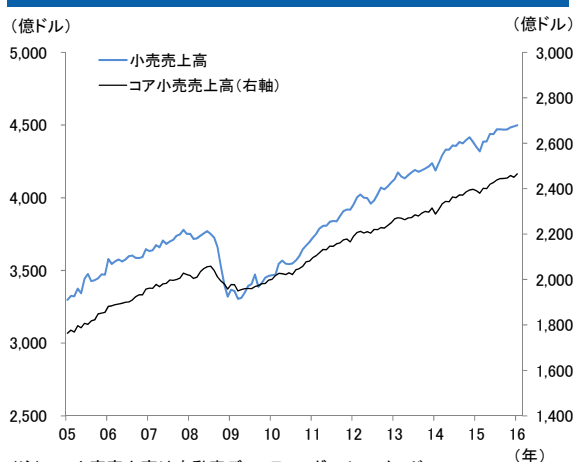
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「米国経済の底堅さを示す雇用の伸び」(2016年3月7日)参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20160307_010703.html

個人消費

- ◆ 2016年1月の小売売上高は前月比0.2%増加した。コア小売売上高は同0.6%増加し、2ヵ月ぶりの増加となった。
- ◆ 2月の自動車販売台数は前月比0.2%減少し、年率換算で1,754万台であった。ライトトラックは前月からわずかに増加したものの、乗用車が2ヵ月ぶりに減少し全体を押し下げた。
- ◆ 2月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の92.0から91.7へと低下した。現況指数は前月から上昇したが、期待指数の低下が押し下げ要因となった。

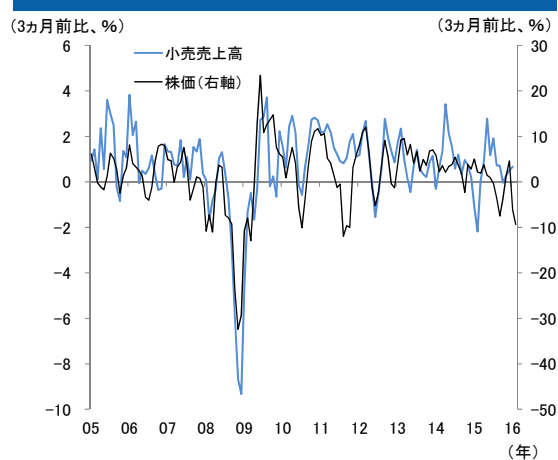
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

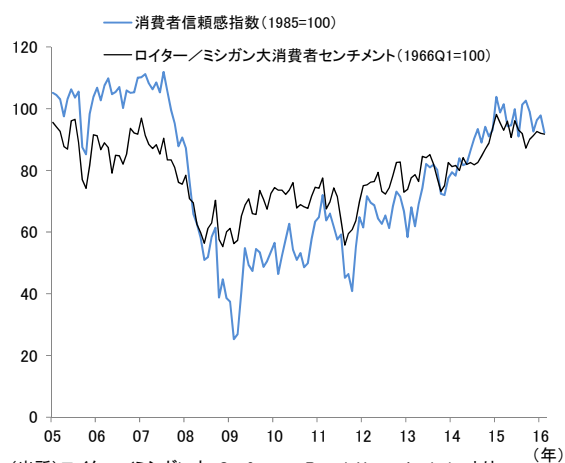
消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。

(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

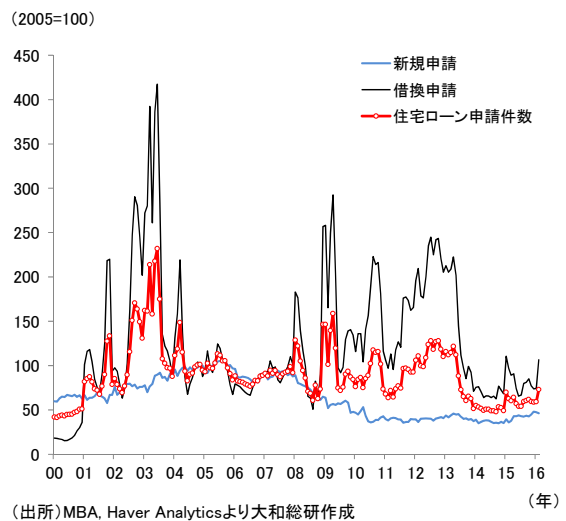
住宅市場

- ◆ 2016年1月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比3.8%減の年率換算109.9万戸であった。
- ◆ 1月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比1.0%増と2ヵ月連続で増加し、年率換算486万戸となった。
- ◆ 1月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比9.2%減少の年率換算49.4万戸であった。
- ◆ 2015年12月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比0.8%上昇した。

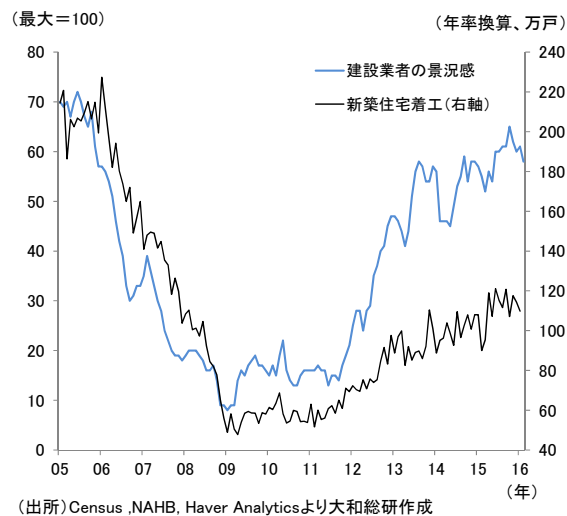
住宅販売（一戸建て）



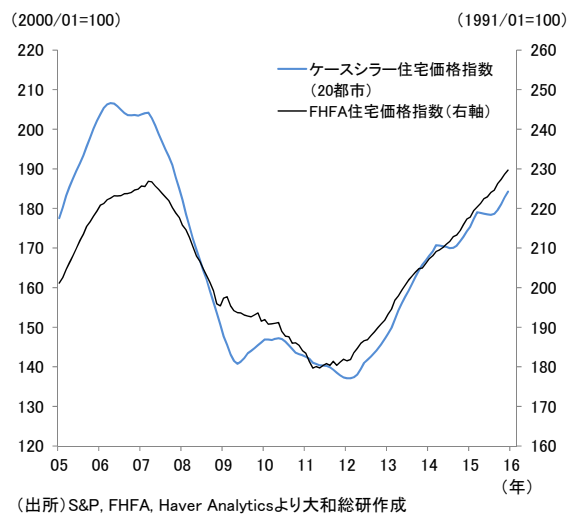
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



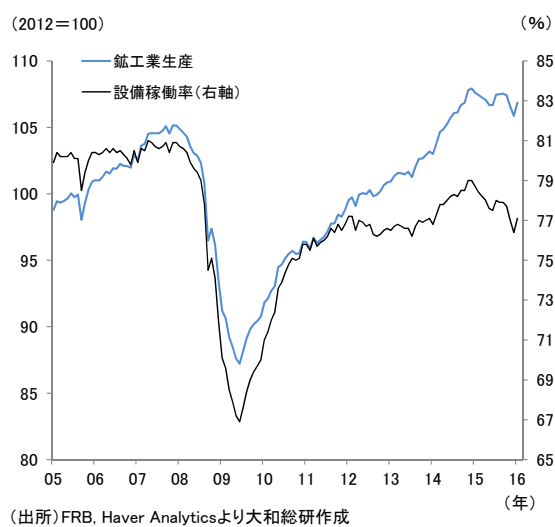
住宅価格



企業動向

- ◆ 2016年1月の鉱工業生産指数は前月比0.9%上昇し、6ヵ月ぶりの上昇となった。指数全体の約7割を占める製造業（SICベース）は同0.5%上昇した。
- ◆ 1月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比3.4%増と3ヵ月ぶりに増加した。
- ◆ 2月のISM製造業指数は、前月差1.3%ポイント上昇の49.5%であった。2ヵ月連続の上昇となったものの、基準となる50%を5ヵ月連続で下回った。非製造業指数は、前月から0.1%ポイント低下し、53.4%であった。

鉱工業生産と設備稼働率



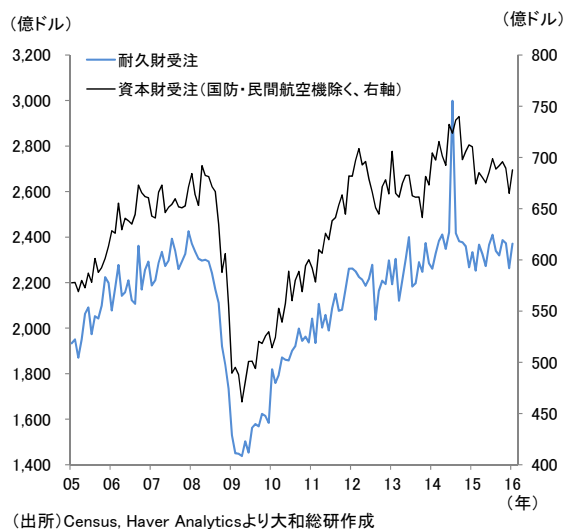
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



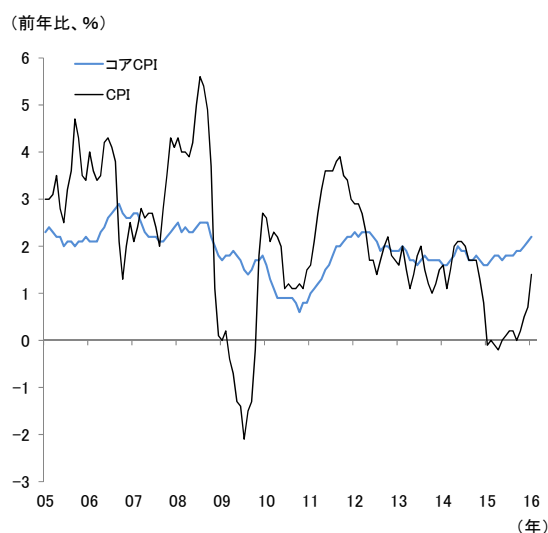
耐久財受注



物価動向

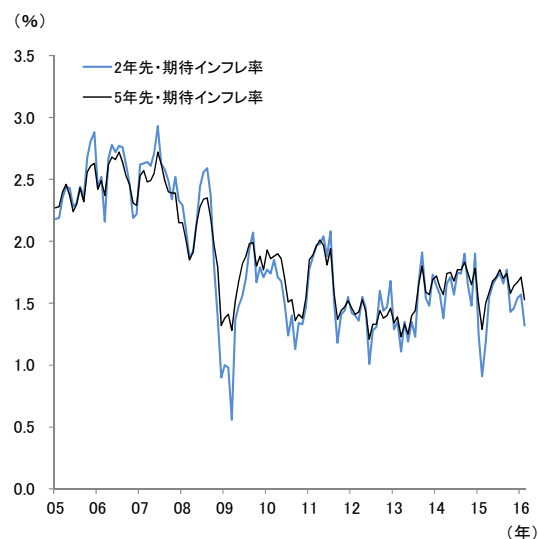
- ◆ 2016年1月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.4%上昇した。コアCPIは同2.2%上昇し、前月から上昇幅が拡大した。
- ◆ 2月の2年先期待インフレ率は1.32%、5年先期待インフレ率は1.53%であり、いずれも前月から低下した。
- ◆ 2月末のWTI原油先物価格は33.75ドル/バレルと、1月末の33.62ドル/バレルからわずかに上昇した。

消費者物価指数



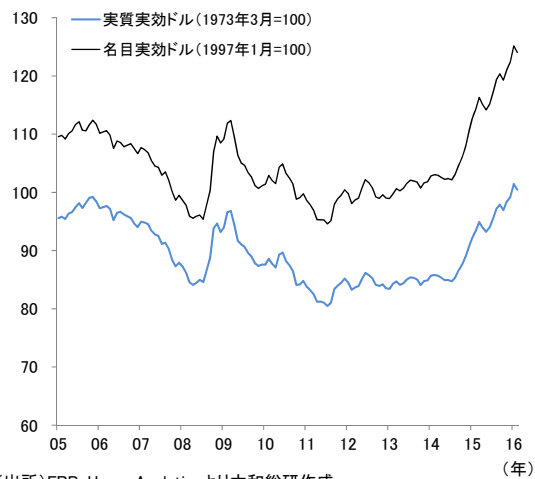
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

期待インフレ率



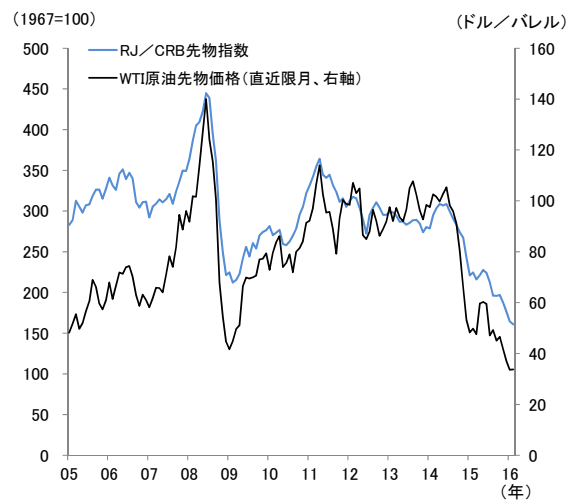
(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

コモディティ価格

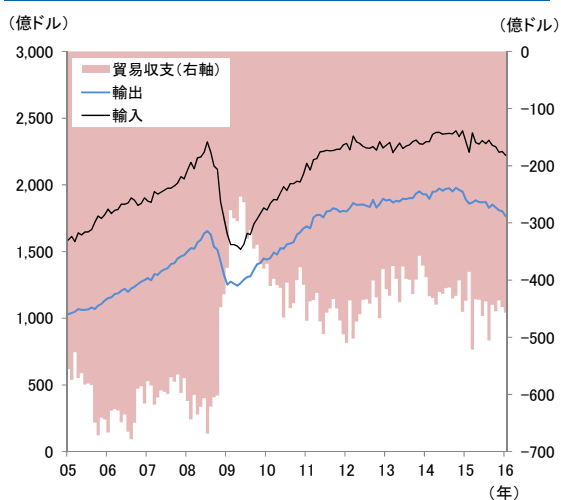


(出所)Wall Street Journal, CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

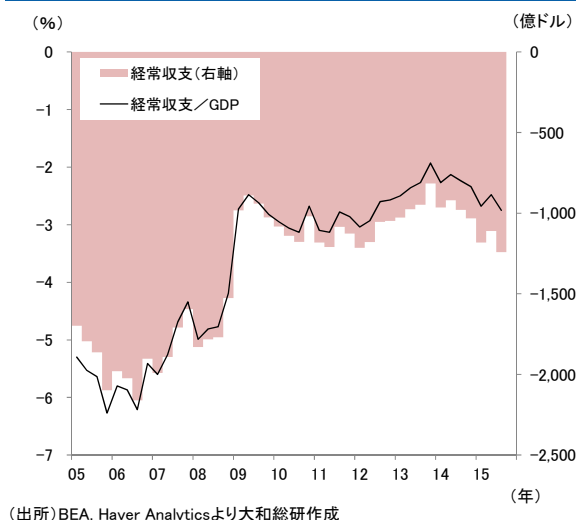
輸出入・経常収支

- ◆ 2016年1月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比2.1%減少し、輸入は同1.3%減少した。貿易赤字は前月から2.2%拡大し、約457億ドルとなった。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では資本財、消費財、工業用品など幅広い品目が前月から減少した。一方の輸入は、自動車、飲食料品が増加したものの、資本財、工業用品などが減少した。
- ◆ 地域別（財）では、欧州への輸出が前年比10.1%減少、中国向けが同14.0%減少、日本向けも同8.1%減少した。輸入は、欧州からの輸入が同8.1%減少、中国からの輸入が同2.7%減少、日本からの輸入は同11.9%減少した。

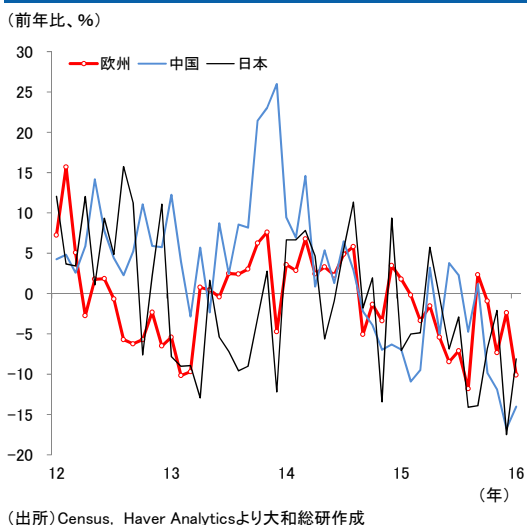
貿易収支動向



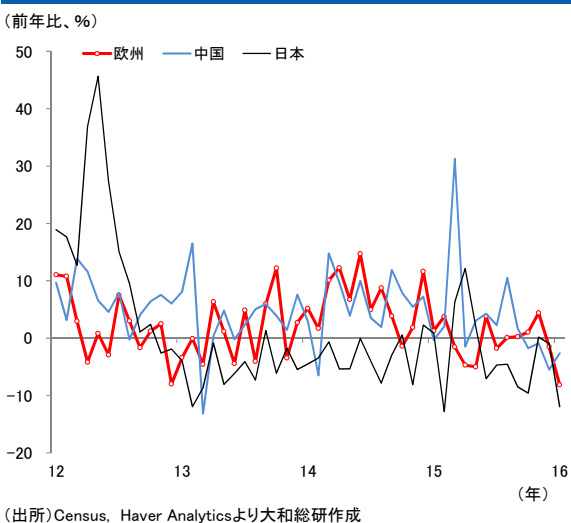
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



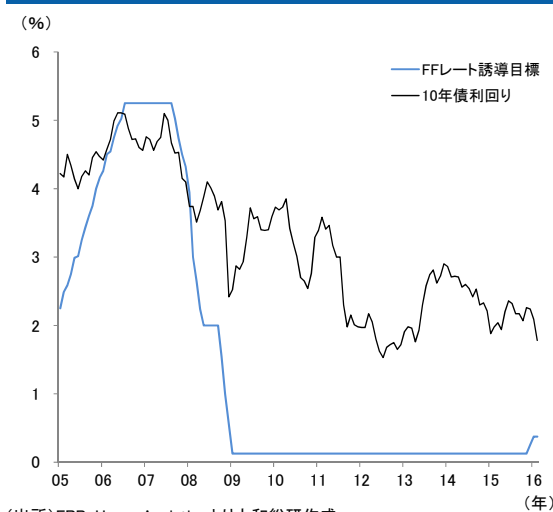
国・地域別輸入動向



金融・財政

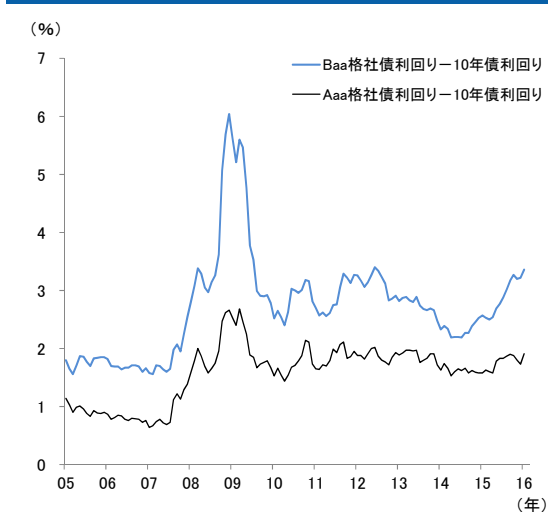
- ◆ 2016年1月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジは据え置かれた。また、保有する資産規模については、現在の水準を維持することが決定された。FRBの資産残高は、直近の3月2日の週平均が約4兆5,200億ドルであった。
- ◆ 2月の長期金利（10年債利回り）の平均値は1.78%となった。世界的にリスク回避志向が高まる中で2月上旬まで低下基調が続いたが、月後半にかけて緩やかな上昇傾向となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小している。

政策金利・長期金利



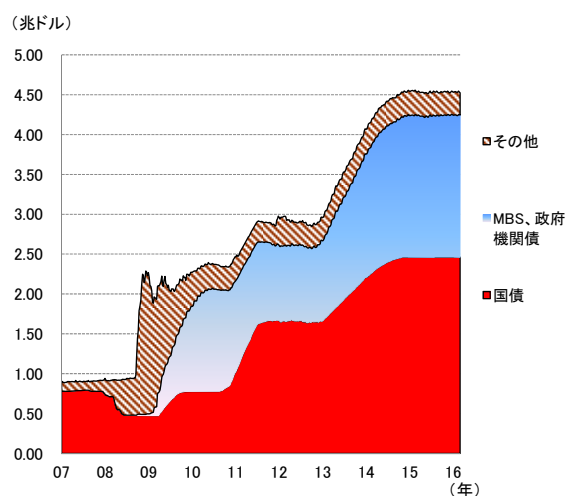
(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

クレジットスプレッド



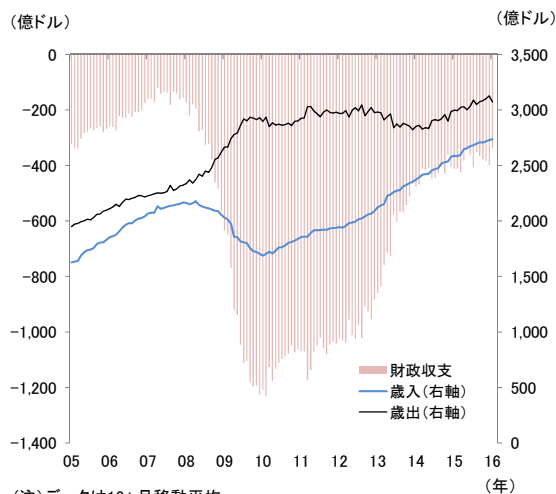
(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

FRBの資産構成



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

連邦政府の財政収支



(注)データは12ヵ月移動平均。

(出所)米財務省, Haver Analyticsより大和総研作成